

ルカの福音書 第17章 21節

「『そら、ここにある』とか、『あそこにある』とかいえるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

エルサレム神殿と深くかかわるパリサイ人の問い、「神の国はいつくるのか」に応答するイエスのみことばである。外国支配にあるなかで、いつになったら自分たちの国、神が自分たちの願う国をもたらしてくれるのか、は喫緊の関心事であった。他国支配下での日常生活が厳しいほど、新しい支配、神の国への願いは強い。そのような状況であったからでしょう。イエスに敵対しがちなパリサイ人がイエスに神の国のこと、到来を尋ねる。

問う者がどの様な者か、その素性に関わりなく淀みなく、直ぐ応答する。イエスがお語りになる真理は、問う者が誰か、問われる場がどこか、時に左右されることなく放たれる。人を選ばず、時と場に左右されることなく、ことの次第に左右されず、真理は真理であり続ける。

イエスの応答から、問う者があたふたしていたかのような様子が見える。混乱していたようである。神の国は、こことか、あそこかといえるものではない。そして、いいですか、とくさびを打ち込むように語りかける。神の国は、あなたの中、それもただ中にある。神の御支配は、その支配を受け入れる者の直中にある。ご支配に歩め。